

入賞

挑戦、新しいまちへ

福島県立ふたば未来学園中学校 1年

カワシマ ハルト
川嶋 暖大

東日本大震災の発生は、僕が一歳を迎える数日前だった。まだ幼かった僕に、震災当時の記憶はない。しかし、震災に関する話題は、両親や祖父母、学校の先生などから繰り返し聞いてきたし、テレビなどのメディアでも幾度となく耳にしてきた。とてつもない災害だったことはよく知っている。

中学生になって、初めて父と「震災伝承みらい館」を訪れた。どす黒い壁のような津波。その津波でたやすく流されてしまう建物。がれきとなったあらゆるもの。想像でしかなかった出来事が、現実起こった事なのだと、僕の胸に突き刺さってくるような感覚だった。いわき市にある僕の家には、幸い大きな被害はなかったが、原子力災害のため、約一年間母子避難をしていたと、母から聞いたことを思い出した。様々な大きな被害が人々をおそったこと、十年以上たってもなお苦しんでいる人々がいることを、改めて感じた。

僕が通う中学校がある広野町に、入学する前はほとんど来たことがなかった。両親が、原発事故による影響を気にしていたようだ。同じように、「あえて双葉地区に行く必要はない」と考える人がまだまだいると思う。双葉地区に、徐々に人が戻って来ていること、復興に向けて一歩ずつ進んでいることをもっと積極的に発信する必要があるのではないだろうか。

僕は今双葉地区で、何も心配することなく充実した中学校生活を送っていることを伝えたい。

僕は、一度全てを失った双葉地区だからこそ、これからいろいろな挑戦もできるのではないかと思う。例えば、豊かな自然を生かした再生可能エネルギーの開発や普及、人と自然が共生していけるコミュニティの形成、そして、双葉地区の魅力を世界に向けて発信することなどだ。再生可能エネルギーについては、「再生可能エネルギー館」を建設し、研究や開発に取り組んだり、学生に向けた見学を充実させるなど普及を図ったりしてみてもはどうだろうか。地球の未来を守る上でも、大切な視点になると思う。

人と自然の共生については、まずは荒れてしまった農地や山を取り戻し、農業や林業に興味を持っている人達の双葉地区への移住を支援してはどうだろうか。自然を大切にしてくれる人達が集まれば、地域自然コミュニティの形成につながっていくと思う。

そして、東日本大震災から復興を続け、以前よりも魅力を増した双葉地区を世界に発信したい。長い年月がかかるかもしれないが、多くの人ができることを少しずつ協力し合うことで、活力ある双葉地区が作られると思う。僕も、中学校の総合学習「未来創造学」で双葉地区について探求を続けたい。深く知ることで、僕にもできる何かが見つければいいなと思う。